試験対策（精算表）

精算表の作成は第5問に出題されます。

（1）順進と逆進

精算表の出題は順進（じゅんしん）問題と逆進（ぎゃくしん）問題があります。精算表は、**決算整理前残高試算表 → 決算整理 → 損益計算書・貸借対照表**と手続きを進めますが、この流れどおりの問題を順進問題といいます。逆進問題は、損益計算書や貸借対照表の数値が与えられて、決算整理前残高試算表の数値を答えるといった、手続きの流れとは逆に進む処理を行う問題をいいます。

例題　**精算表を作成しなさい。なお、期末商品は800円である。**

精　　算　　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	700							
仕入	2,000							

必要な決算整理仕訳を考え、精算表に記入します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**700**	**繰越商品**	**700**
繰越商品	**800**	**仕入**	**800**

精　　算　　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	700		**800**	**700**			**800**	
仕入	2,000		**700**	**800**	**1,900**			

例題　**精算表を作成しなさい。**

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品							800	
仕入	2,000				1,900			

「繰越商品」勘定の貸借対照表欄800より、期末商品が800であることがわかります。

また、「仕入」勘定は以下の式が成り立ちます。

前T/B（当期仕入）＋期首商品－期末商品＝売上原価（損益計算書欄）

本問にあてはめますと、2,000＋期首商品－期末商品800＝1,900

したがって、期首商品が700とわかります。決算整理仕訳は以下となり、精算表に記入します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**700**	**繰越商品**	**700**
繰越商品	**800**	**仕入**	**800**

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	**700**		**800**	**700**			800	
仕入	2,000		**700**	**800**	1,900			

（２）出題論点

精算表は、**決算整理前残高試算表 → 決算整理 → 損益計算書・貸借対照表**と手続きを進めますので、基本的には、決算整理が出題されます。しかし、決算整理以外にも、訂正仕訳や未処理も出題されます。

① 決算整理

下記の論点が頻出ですので、苦手な論点がないように各テーマでしっかり学習して下さい。

・売上原価の算定
・固定資産の減価償却
・現金過不足の処理
・貸倒引当金の設定
・収益・費用の前受・前払と未収・未払

② 訂正仕訳・未処理

訂正仕訳や未処理については、問題の指示にしたがって、解いて下さい。なお、訂正仕訳や未処理を先に処理してから、次に決算整理仕訳を行って下さい。例えば、売掛金の回収が未処理であった場合、貸倒引当金は、未処理を処理した後の売掛金残高に対して設定しますので、先に、貸倒引当金の設定を行うと、未処理を仕訳した後にまた、貸倒引当金の修正が必要となるからです。頻出の論点は以下です。

・仮払金の精算
・仮受金の整理
・勘定科目の間違え
・未処理

（３）決算整理の例題

例題　**決算において、現金不足額200円の原因が判明しなかった。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
雑損	**200**	**現金過不足**	**200**

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金過不足	200			**200**				
雑損	500		**200**		**700**			

例題　**当期首に取得した建物（取得原価120,000円、残存価額は取得原価の10%、耐用年数30年、定額法）について、減価償却を行う。**

(取得原価120,000－残存価額120,000×0.1)÷耐用年数30年

＝取得原価120,000×0.9÷耐用年数30年＝減価償却費3,600

借方科目	金額	貸方科目	金額
減価償却費	**3,600**	**建物減価償却累計額**	**3,600**

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
建物	120,000						**120,000**	
建物減価償却累計額				**3,600**				**3,600**
減価償却費			**3,600**		**3,600**			

（４）訂正仕訳・未処理の例題

例題　**商品の手付金として800円を受け取っていたが、これを売掛金から控除していたので、決算にあたり修正する。**

実際に行った仕訳（借方は現金と仮定します）

現　　金　800 /　売　掛　金　800

本来、行うべき仕訳（借方は現金と仮定します）

現　　金　800 /　前　受　金　800

修正仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
売　掛　金	**800**	**前　受　金**	**800**

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
売　掛　金	1,700		**800**				**2,500**	
前　受　金		1,500		**800**				**2,300**

例題　**取立依頼していた約束手形900円が無事決済され、当座預金口座に入金されたが、未処理である。**

取立依頼とは、手形の代金の取り立て（回収）を取引銀行に依頼することをいいます。この取引は、受取手形の回収取引です。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当　座　預　金	**900**	**受　取　手　形**	**900**

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
当座預金	2,700		**900**				**3,600**	
受取手形	2,500			**900**			**1,600**	

試験対策（P/L・B/S）

損益計算書と貸借対照表の作成は、第3問または第5問に出題されることがあります。

出題形式としては、**決算整理前試算表**が与えられている問題と**決算整理後試算表**が与えられている問題があります。

決算整理前試算表が与えられている問題では、精算表と同様に、**決算整理前試算表 → 決算整理 → 損益計算書・貸借対照表**と手続きを行いますので、決算整理仕訳を行い、それを加味して、損益計算書と貸借対照表を作成します。

決算整理後試算表が与えられている問題では、決算整理がすでに終わっていますので、決算整理後残高試算表の数値を使って、損益計算書と貸借対照表を作成します。

損益計算書と貸借対照表を作成する場合には、以下に注意して下さい。

・「売上」勘定は、**売上高**として表示します。
・「仕入」勘定は、**売上原価**として表示します。
・「繰越商品」勘定は、**商品**として表示します。
・「貸倒引当金」勘定は、原則として、売掛金や受取手形などの対象債権から控除する形式で表示します。したがって、貸方ではなく、借方に表示します。
・「減価償却累計額」勘定は、原則として、建物や備品などの対象固定資産から控除する形式で表示します。したがって、貸方ではなく、借方に表示します。

例題 **次の決算整理前残高試算表にもとづいて、損益計算書と貸借対照表を作成しなさい。期末商品は800円であり、未払給料100円を計上する。**

決算整理前残高試算表

借　方	勘定科目	貸　方
1,200	現金	
700	繰越商品	
	借入金	300
	資本金	700
	繰越利益剰余金	300
	売上	3,200
2,000	仕入	
600	給料	
4,500		4,500

決算整理仕訳

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
仕入	**700**	**繰越商品**	**700**
繰越商品	**800**	**仕入**	**800**
給料	**100**	**未払給料**	**100**

損益計算書

費　用	金　額	収　益	金　額
売上原価	1,900	売上高	3,200
給料	700		
当期純利益	600		
	3,200		3,200

売上原価：前T/B 仕入2,000＋700－800＝1,900

給　　料：前T/B 600＋100＝700

貸借対照表

資　産	金　額	負債・純資産	金　額
現金	1,200	未払給料	100
商品	800	借入金	300
		資本金	700
		繰越利益剰余金	900
	2,000		2,000

繰越利益剰余金：前T/B 300＋当期純利益600＝900

例題 **次の決算整理後残高試算表にもとづいて、損益計算書と貸借対照表を作成しなさい。期首商品は700円、期末商品は800円であった。**

決算整理後残高試算表

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
1,200	現　　　　金	
?	繰　越　商　品	
	未　払　給　料	100
	借　　入　　金	300
	資　　本　　金	?
	繰越利益剰余金	300
	売　　　　上	3,200
1,900	仕　　　　入	
700	給　　　　料	
?		?

決算整理**後**残高試算表の「繰越商品」勘定（資産）は、期末商品の金額800円が入ります。それによって、借方合計が4,600円となります。貸方合計は借方合計4,600円と一致しますので、貸方の差額で「資本金」勘定（純資産）には700円が入ります。そして、決算整理後残高試算表にもとづいて、損益計算書と貸借対照表を作成します。

損　益　計　算　書

費　　用	金　　額	収　　益	金　　額
売　上　原　価	1,900	売　　上　　高	3,200
給　　　　料	700		
当　期　純　利　益	600		
	3,200		3,200

売上原価：後T/B 仕入1,900

貸　借　対　照　表

資　　産	金　　額	負債・純資産	金　　額
現　　　　金	1,200	未　払　給　料	100
商　　　　品	800	借　　入　　金	300
		資　　本　　金	700
		繰越利益剰余金	900
	2,000		2,000

繰越利益剰余金：前T/B 300＋当期純利益600＝900

例題　**次の決算整理後残高試算表にもとづいて、貸借対照表を作成しなさい。**

決算整理後残高試算表

借　　方	勘定科目	貸　　方
1,200	現金	
1,000	売掛金	
800	繰越商品	
2,000	備品	
	未払給料	100
	借入金	300
	貸倒引当金	20
	減価償却累計額	1,500
	資本金	2,000
	繰越利益剰余金	500
	売上	3,200
1,900	仕入	
500	給料	
200	減価償却費	
20	貸倒引当金繰入	
7,620		7,620

貸倒引当金20円は、売掛金1,000円から控除する形式で借方に表示し、純額の金額980円（＝1,000円－20円）をその右側に表示します。また、減価償却累計額1,500円は、備品2,000円から控除する形式で借方に表示し、純額の金額500円（＝2,000円－1,500円）をその右側に表示します。

貸　借　対　照　表

現金		1,200	未払給料	100
売掛金	1,000		借入金	300
貸倒引当金	20	980	資本金	2,000
商品		800	繰越利益剰余金	1,080
備品	2,000			
減価償却累計額	1,500	500		
		3,480		3,480

当期純利益：売上3,200－(仕入1,900＋給料500＋減価償却費200＋貸倒引当金繰入20)＝580

繰越利益剰余金：後T/B 500＋当期純利益580＝1,080